

GERUDE・ゲルデ

現地実態調査



現地実態調査

調査対象：ウランバートル市スフバートル区

対象住戸：ゲル地区の14世帯（14戸）

調査日時：2021年8～9月

調査方法：現地聞き取り調査

調査内容：ゲルと固定家屋バイシンの利用実態

敷地内の空き地の利用実態

今後のゲル地区における住まいへの要望

緊急実態宣言中に行った住環境改善活動



写真1 ウランバートル市におけるゲル地区の様子(2021年9月撮影)

研究調査データ：ゲル地区の住民が建てた ゲル+バイシンの設計事例1(世帯No8)

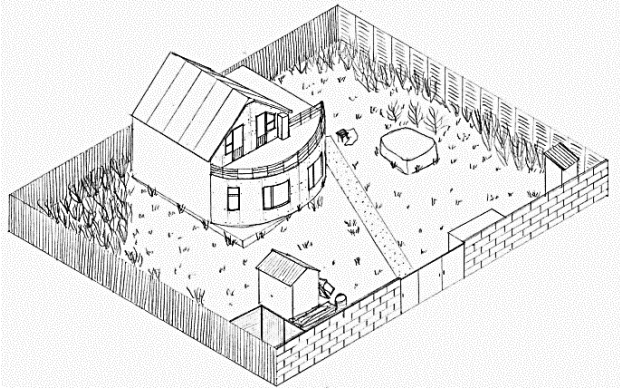


図2 世帯No8のアイソメ図



写真2 世帯No8のバイシンの外観

特徴：

- 固定家屋バイシンにモンゴルゲルの雰囲気を与えるため、ファサードの部分を丸く表現している
- モンゴルゲルのように風通しが良い性質を保つために大きな窓を設けている
- インテリアに一体感を与えるため、らせん階段を設けている



写真3 世帯No8の曲がっているところの内装



写真4 世帯No8の内装

研究調査データ：ゲル地区の住民が建てた ゲル+バイシンの設計事例2(世帯No9)

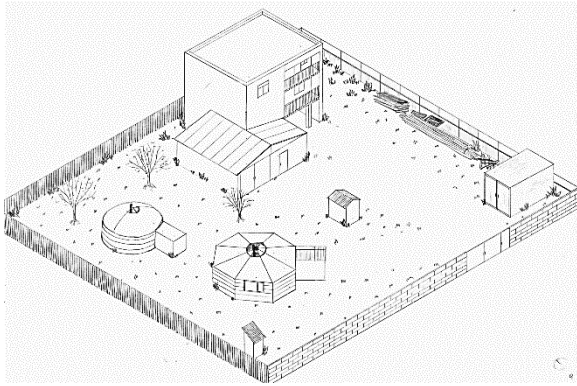


図3 世帯No9のアイソメ図



写真5 世帯No9のバイシンの外観

特徴：

- 八角の形をデザインに取り入れている
- 外観デザインにも内装デザインにもモンゴルゲルの伝統を受け継ぐ考えが含まれている
- 元家具屋であり、家具デザインもバイシンに合わせてデザインしている、個性的なデザインとなっている

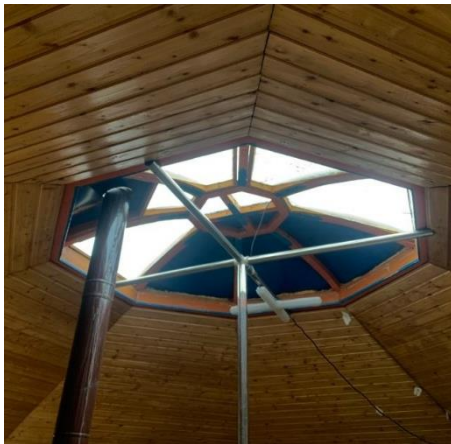


写真6 世帯No9の
バイシンの天窗と柱



写真7 世帯No9の
バイシンの内装



写真8 世帯No9の
バイシンの内装

現地調査結果

敷地内の主要要素の配置と方位の分析

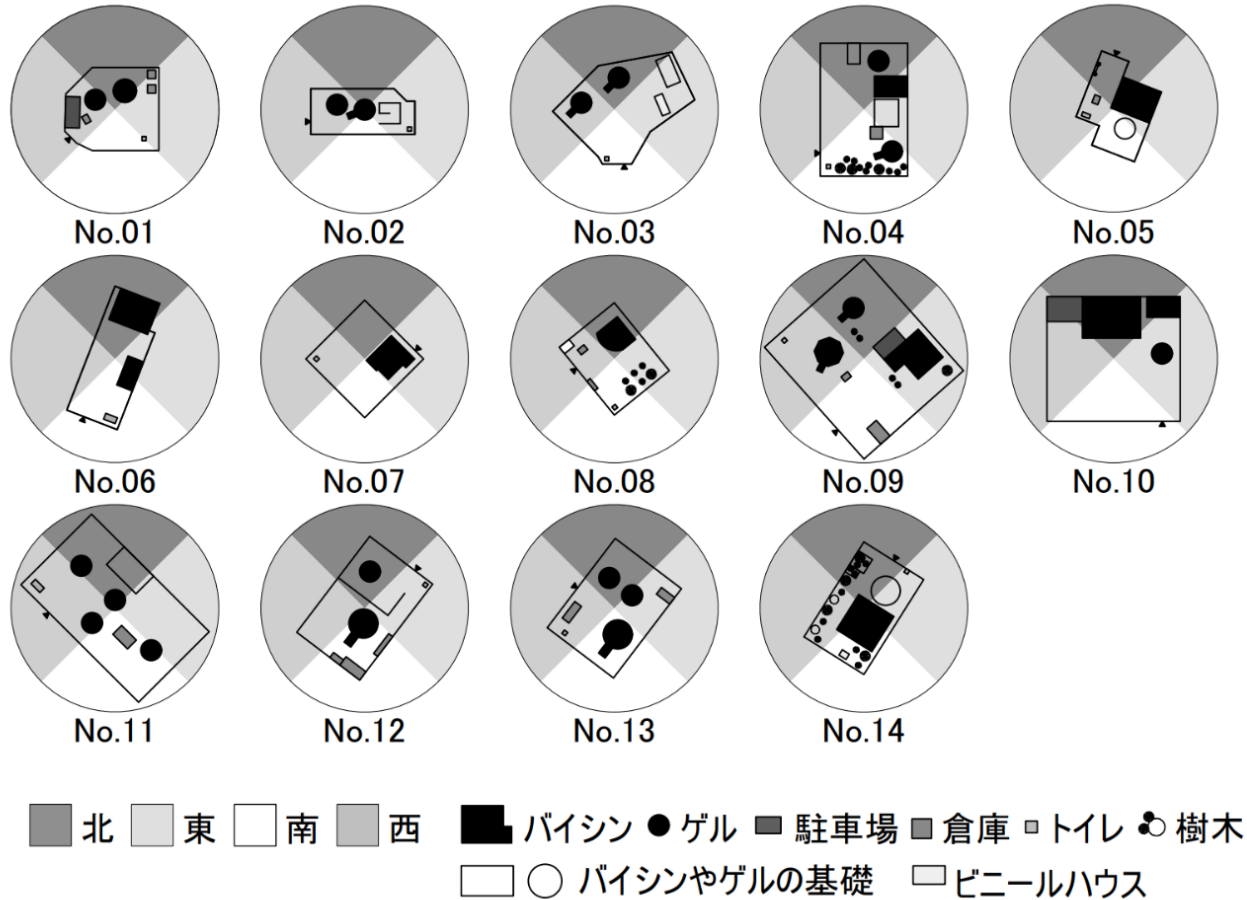


図3 各世帯の配置と方位

調査した14戸の配置およびアイソメ図を作成した。(左図)

バイシンやゲルはハシヤー(敷地の境界線)の北側に配置される傾向がある。モンゴルゲルの向きは南側で、太陽時計が正しく働く。しかし、現在太陽時計を使用しなくなったため、ゲルの向きがバラバラとなっていることが図3から分かる。また、ゲルの入口のところに倉庫を設け、玄関として利用していることが多く、ゲルが南側向きではなくなった原因の一つだと考えられる。

研究調査のデータ： 今後のゲル地区での生活にあたっての要望

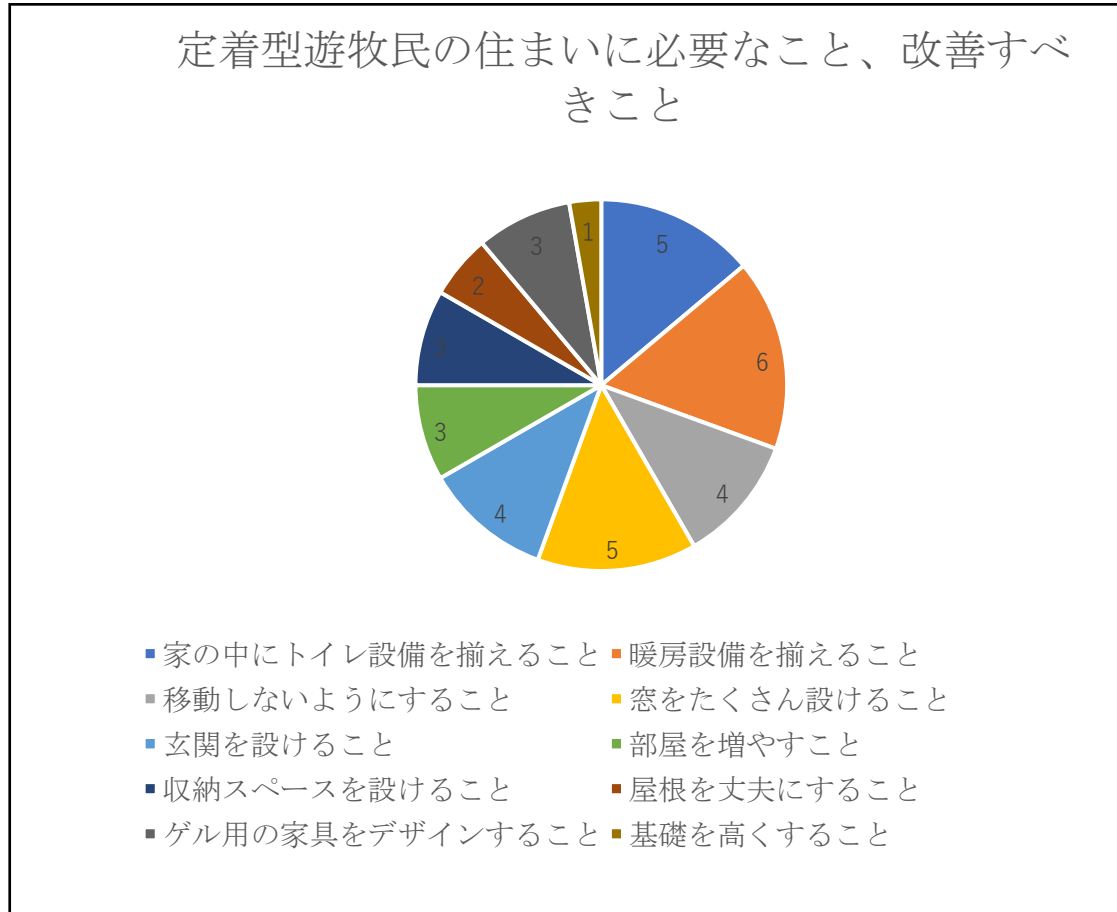


図4 定着型遊牧民の住まいに必要なこと、改善すべきこと

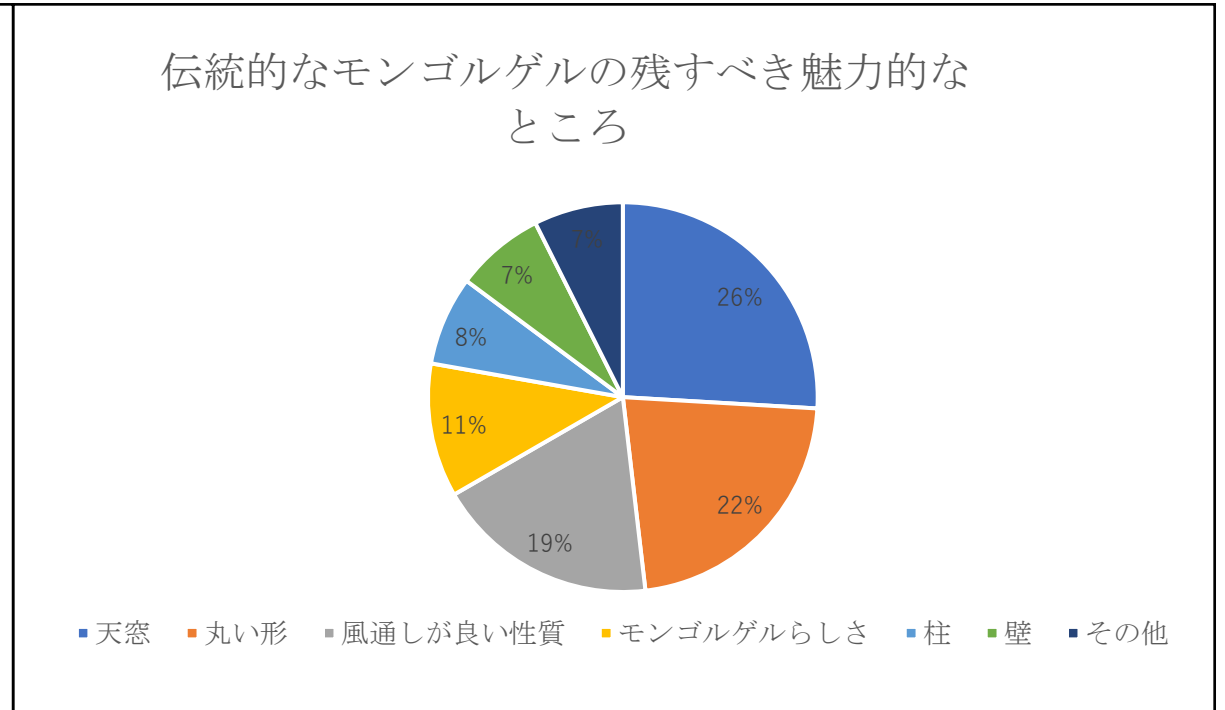


図5 伝統的なモンゴルゲルの残すべき魅力的なところ

研究調査のデータ：

緊急実態宣言中に行った住環境改善活動

調査を行った14戸のうち、7戸が新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急実態宣言中に敷地内やバイシン、ゲルを改善しようとしていた。以下に改善した点を述べる。

- 1) モンゴルゲル用の家具を作っていた。
- 2) 敷地内に木を植えたり、ガーデニングをしていた。
- 3) バイシンの窓を買い換えた。
- 4) バイシンにリノベーションをしていた。
- 5) 敷地内に歩道を作っている。
- 6) 敷地内に芝生を植えた。
- 7) 屋根を色塗りした。
- 8) 新しくバイシンを建てた。



写真9 世帯No14のガーデニングの様子
(2021年9月撮影)

結論

ゲル地区でのモンゴルゲルの暮らしにあたって、不便な点を自分なりに解決方法を考え、モンゴルゲルからインスピレーションを受けた固定家屋バイシンを設計している4世帯もいた。元々エンジニアや建築士の方達が自分の知識に基づいて、設計提案をはじめ建設まで100%自力で建てていたのが事実である。

ゲル地区で今後も暮らし、**住環境を改善したい**という住民の意思が**非常に強い**ということが調査で明らかになったので、**ゲル地区での暮らしを快適にするためのプロジェクトは今後も必須**となる。